

令和 3 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	ふるさと納税事業	会計名称	一般会計		担当課	財政課	
		予算科目	2 款 1 項 7 目	事業番号	251	所属長名	皆川竜男
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	栗田計誠	
法令根拠等	所得税法・地方税法				実施期間	【開始】	令和/平成 20 年度
総合計画での位置付け	参画協働推進都市の創造 効率的で透明性の高い行財政運営					【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	地方財政の状況が厳しさを増す中、有効な財源確保の手段として最大限の活用を図る。						
事業の対象	市職員及び市民			事業の目的	財政基盤の強化を図るとともに、制度を通じて伊予市の魅力を全国に発信する。		
事業の内容 (整備内容)	寄附申込みの受付から収納までの事務及び制度啓発事務			昨年度の課題に対する具体的な改善策	寄附単価の高い家具 (8万円~9万円) など、年間を通じて提供でき、かつ事務効率のよい返礼品を開発したところ、令和3年度は13件の注文があり、総額105万円の寄附を集めることができた。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	3年度予定	9月末の実績	3年度実績
直接事業費	18,184	17,533	0	0	0	16,372	寄附件数	件	2966	2800	196	2699
財源内訳						0						
国庫支出金		0	0	0	0	0						
県支出金		0	0	0	0	0						
地方債		0	0	0	0	0						
その他		0	0	0	0	0	寄附金額	千円	48302	46100	3681	43441
一般財源	18,184	17,533	0	0	0	16,372						
職員の人工 (にんく) 数	0.65	0.65				0.65						
1人工当たりの人件費単価	7,812	7,841				7,841						
※ 直接事業費+人件費	23,262	22,630				21,469						
主な実施主体	直接実施		実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		ふるさと納税返礼品調達 (報償費) 13900千円							
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	5年間の合計		
					16,600	16,700	16,800	16,900	17,000	84,000		
成果指標	指標	寄附金額	単位	⇒	区分年度	前年度	3年度	4年度	目標	毎年度		
			千円		目標	42850	46100	65400	65400			
	指標設定の考え方	目的を財政基盤の強化としていることから、寄附金額を指標とする。			実績	48302	43441		65400			
	指標で表せない効果											

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		概ね前年度程度に推移している。									
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	合計点が	S	事業成果・工夫した点	新規返礼品の導入・検討を行い、実際に寄附単価の高い返礼品を導入するなど工夫を重ね、概ね前年度並みで堅調に推移してきたものの、他自治体との寄附額獲得競争の様相もあり、前年度寄附額を超えるに至らなかった。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	合計点が	S				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	4 4 4	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	3 3 3	合計点が	A	事業の苦勞した点・課題	これまで同様、返礼品の新規開発、流通の開拓には時間もかかり、苦勞している。いまだ季節限定返礼品、特に柑橘に大きく依存している状況は変わりなく、通年や夏季、1~3月に人気を得られる返礼品の開発に取り組む必要がある。次年度以降新たなポータルサイトの導入等、手法の見直しにも着手する。			
		コスト効率	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D						
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D						
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	合計点が			S	事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業継続と判断する。</li> <li><input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する</li> <li><input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する</li> </ul> (判断の理由) 目的に則した事業である。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	合計点が	S					
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	4 4 4	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D						
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D						
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	合計点が	S	所屬長の課題認識	人気のある返礼品が季節限定(柑橘)の品に偏っており、年間を通じた魅力ある返礼品の発掘が必要である。				
	コスト効率	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D							
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 5 5	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D							

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。		
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。		
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 【行政評価委員会委員選定事業】 寄付額の増額を目指し、新たな返礼品開発やポータルサイトの拡充を図ること。		
			<input type="checkbox"/>		一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。
			<input type="checkbox"/>		一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。
<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。				

行政評価委員会の答申	外部評価	<p><b>答申の内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄附金額以上に思わせる写真であれば、一目見て選ばれやすい。写真品質にばらつきがあり、差し替えを検討すべき。</li> <li>・ 寄附者だけでなく、販売業者へのヒアリングも大切な情報収集源である。商品開発の新たな切り口として実施すべき。</li> <li>・ 市民がふるさと納税することにより、流出する財源もある。入りと出のバランスをどのようにとるかも重要である。</li> <li>・ 伊予市と協力事業者との繋がりが分かるとよい。商品に係る物語性も踏まえた説明にする方が惹きつけられるだろう。</li> <li>・ 地域の景観や自然環境の保護・保全に対する、応援型の寄附メニューがあってもよいのではないか。</li> <li>・ 市民にも伊予市の良さに気づいてもらい、市民自らがアピールしていけるような仕組みができるとよい。</li> </ul>
------------	------	---

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する。 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する。 <input type="checkbox"/> 見直しの上、継続する。 <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。 <input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	コメント欄 市民が他の自治体へふるさと納税をすることによって流出する財源もあるため、一層の強化が必要である。ふるさと納税の収益の一部については、一定額を地域振興に充てる仕組みも検討すること。